

埼玉育ちのグローバル人

大草原の小さな家…に暮らす、元留学生

第1回 「一つ屋根の下、異文化交流！」

平成24年度「埼玉発世界行き」奨学生
カーン友子 さん



SAITAMA

埼玉県マスコット「コバトン」



初めまして！今回から3回、エッセーを担当することになりましたカーン（旧姓：若菜）友子と申します。高校生の時に始まり、大学・大学院留学時代を経てもう人生の半分ほどをアメリカで暮らしてきました。現在はアメリカの中西部、ローラ・インガルス・ワイルダーの小説『大草原の小さな家』にも出てくる、ウィスコンシン州に住んでいます。幼い頃に読んだ物語の舞台に、大人になって実際に住むことになるとは、不思議なものです。そんな私の経験を、時間を遡る形でお話ししようと思います。

突然ですが、皆さんは **Blended family**（ブレンデッド・ファミリー）という言葉をご存知ですか。日本ではあまり馴染みのない概念かもしれません。再婚などによって、血縁のない親子や兄弟が含まれた家族のことを言います。



仲良しな2人（右が1歳の息子）



家の二人のティーンエイジャーと勉強中

我が家もそんなブレンデッドファミリーの一つです。夫と1歳になったばかりの息子、そして夫の連れ子である二人のティーンエイジャーと暮らしています。ウィスコンシン州では離婚後に子どもが片方の親の元だけで過ごすということはあまりないようで、我が家の場合も、50%は父親（夫）と、50%は彼らの母親と一緒に住んでいます。私と二人のティーンエイジャーは、親子としては歳が近いので、ちょっと立場が複雑な友達のような関係です。

それだけでも一風変わっていますが、それに加えて我が家はとてもインターカルチュラル。夫はユダヤ系アメリカ人ですが江戸文学の教授で、東京や京都での留学・研究・勤務経験があります。そして日本語も達者で、江戸の言葉については私より

も遥かに詳しい一面も。一方の私は、先述の通りアメリカでの暮らしが長い埼玉人。日本語教師として日本の流行や最新事情には詳しくいられるように努力はしていますが、長い年月の間にはだいぶ日本離れしてしまった部分もあると思います。上の二人の子どもたちも、生みの母親が日本人ということもあって日本語と英語のバイリンガル。そんな二人の弟である息子は、毎日家族全員から英語と日本語の歌や言葉を聞きながら成長しています。息子には、夫と私がそうであるように、アメリカと日本の両方の文化を理解し大切に作る人間に育ってほしいと思っています。

ちなみに私は夫に会うまでユダヤ系の人の価値観にはとても疎かったのですが、夫のおかげで色々と学ぶことがたくさんありました。夫曰く、例えば教育や家族を大切にするとところなどは日本人の価値観と似ているそうです。ユダヤ人が討論を好むという部分は面白いと感じる一方、和を尊いとする日本文化とはちょっと違う気がします。年中行事ももちろん違って、毎年クリスマスには何もありませんが、代わりにハヌカを祝います。最初夫から上の二人の子どもはサンタクロースからプレゼントをもらったことがないと聞いた時は驚きましたが、それもそのはず、ハヌカにはサンタクロースは登場しません。



ハヌカのときに灯すハヌキアー

夫婦は似てくる、なんてよく言いますが、私たち夫婦はバックグラウンドも（もちろん見た目も）だい

ぶ違います。しかし共通点も多く、例えば夫は高校時代に旧大宮市に留学経験が、インターン時代には蕨市に居住経験があり、広い世界の中で私と夫の共通点は埼玉県！そんな縁があって、私たちの息子のミドルネームを「武蔵」にしたほどです。ところで、私の研究分野のうちの一つは国際交流ですが、異文化理解のモデルでは「違い」に気づき、理解し、順応していくプロセスを説明するものが多い中、私は「共通点」を見つけることも大事なんじゃないかと思っています。人種、国籍や生まれた地域、宗教や政治的考えが違ったとしても、きっと何か自分と同じところがある。そこに気づくことができれば、少しだけかもしれないけれど、「他人」という見方から「仲間」という見方に変えられるのではないかと、思うのです。



次回はアメリカでの職務経験についてお話ししようと思います。